奨励賞

夢に向かって
～考えこまないで、動いて！～

（ジャワ島地震に対する募金活動を通して）

大分県・国東市立熊毛小学校

竹井　弘子

Ⅰ. はじめに

６年生は９名で、何事にもまじめに一生懸命に取り組む子どもたちである。

昨年度は、４・５年生の複式学級で、「自分たちで稼いだお金で収穫祭をしよう」というテーマで、総合的な学習に取り組んできた。まず、前年度はどんな収穫祭だったのかを振り返り、次に自分たちはどんな収穫祭にしたいか、そんな収穫祭にするためにはどうすればいいのか等を考えて行動に移してきた。そして、ある程度のお金を手にし、そのお金で、地域の方やおうちの方、全校のみんなと収穫を喜び、感謝の気持ちを表せたことに満足感も持てている。

そこで、今年度は、最初に昨年の金銭教育を振り返った。その際に、「自分たちは、お金にも、ものにも、愛情にも恵まれている」ということが出てきた。そこで、今年度は、身の回りや広く世界に目を向けた活動に結びつけていけると捉えた。

募金についてアンケートをとった。

①募金をしたことがありますか。	ア、毎年（5人） イ、毎年ではないが数回（4人） ウ、していない（0人）
②なぜしましたか。（複数回答）	ア、しないといけないと思って（0人） イ、家の人が「しよ。」と言ったから（0人） ウ、友だちがしていたから（1人） エ、なんとなくしたほうがいいと思ったから（4人） オ、誰かの役に立つと思ったから（4人） カ、心から誰かの役に立つと思ったから（3人） キ、その他（1人） ・家のそこら辺に落ちていたのでもったいないと思って
③募金したお金は、どうしたお金ですか。（複数回答）	ア、おうちの人からもらったお金（4人） イ、自分の小遣いの中からのお金（8人） ウ、その他（1人） ・家に落ちていたお金
④募金したお金が、どのように使われているか知っていますか。	ア、知っている（0人） イ、知らない（9人）
⑤困っている人のために何かしたいと思いますか。	ア、したいと思う（9人） イ、思わない（0人）
⑥どんなことをしたいですか。（複数回答）	ア、家がない人とかに募金する（1人） イ、無駄な物を買わずに募金する（8人） ウ、手紙などを送る（2人） エ、重たい荷物などを持ってあげたい（1人）

子どもたちは、これまでに、どの子も募金をしたことがある。しかし、その意義や募金したお金がどう使われているか等についてははっきりしていない。

また、活動や仕事面においては、決められたことをきちんとやるし、自分たちで分担をしたり順番を考えたりして、能率的に創意工夫しようとする姿も見られる。

Ⅱ. 活動の価値

昨年から金銭教育をする中で、子どもたちは『自分は恵まれている』と自覚できている。それは、「欲しい物が手に入る」「自分のしたいことができる」「食べるものがある」「楽しいことがたくさんある」「勉強をしたくてもできない人がいるのに、できる」「他の国では、毎日栄養失調で死んでいる子どもがいる」「元気だ」など、『恵まれている』根拠をあげることができる。また、『恵まれている』という思いは、それぞれ育った環境で少しずつ相違はあるものの、９人にとってある程度共通の思いである。それで、自分なりの感じ方をしたり思いを持ったりして、自分のことだけを考えるのではなくて、身の回りや広く世界に目を向けることができ、自分の小遣いの中から募金をし、それを周りの人々に募金活動として広げることができると考える。

実際に苦しんでいる人や困っている人を目の前にすることはできないが、６年生という発達段階から考えても、インターネットや本で調べたり、国際交流員さんに尋ねたりすることで、気持ちの高まりを見せて欲しいと願っているし、そうなるように、一人ひとりの思いを大事にした支援をしたい。また、地域の人へお願いする活動を通して、熊毛地区で生活している人たちとのつながりにも目が向き、熊毛の人たちの優しさに気づき、感謝の気持ちを持つこともできる。

さらに、実際にジャワ島地震に対する募金活動に結びつけることで、思いを行動に移す勇気を持てると共に、社会の中の一員としての自覚の高まりや行動に対する満足感と、次への意欲を期待できると考えた。また、子どもたちが自分を見つめ直し、将来について考えることのできる活動だとも考えた。

Ⅲ. 目標

○課題に対して見通しを持って、意欲的に活動することができる。（体験活動）

○疑問・感想・驚きなどから、人とのふれあいや体験活動を通して自分なりの考えや根拠から必要感を持ち、意欲的な課題追究ができる。（課題追究）

○たくさんの人とふれあうことで自分の生活を見つめ直し、視野を広げ、周りの人と支え合って生活しようとしたり、社会貢献しようとしたりすることができる。（生き方を考える）

Ⅳ. 活動と支援について

《子どもの必要感につなぐ出会いの場の工夫》

子どもたちが、「自分たちにできることをしたい」と思ったときに、必要感を持ったと捉える。そのためにインドネシア・ジャワ島で起きた地震に対する緊急な募金活動に取り組み、その反省や思いから、日常的な活動へと結びつけていきたい。この活動中での失敗や困り、また、「人の役に立てた」「自分にもできる」という満足感や充実感からも必要感が持てると考える。

インドネシア・ジャワ島の地震に対しては、自分たちが楽しい修学旅行から帰って来た次の朝に起きた地震であることや詳しい状況などから、その悲惨さを理解させたい。

Ⅴ. 金銭教育のねらいとめざす子どもの姿

ねらい		期待する子どもの姿
健全な金銭感覚の育成	金銭に振りまわされずに、けじめのある生活をする人間になるために、金銭に対する健全な感覚を養う。	○小遣いの中から募金をすることを自分なりに計画し、募金することができる。
ものや資源を大切にする心	ものが豊かであふれている社会の中で、生活を見直して、ものや資源を大切にする心を育てる。	○身の回りにあるものを利用して募金箱や貯金箱を作ることができる。
生活設計能力の育成	見通しを持って、計画的に生活する態度を育てる。	○募金を呼びかけたり自分で募金したりすることで、自分の将来について考えることができる。
健全な勤労観と感謝の気持ちの育成	手伝いや仕事を通して、働くことの苦しさや喜びを感じるとともに、家族や社会に対する感謝の心を育てる。	○自分が恵まれている環境にいることに気づき、家族や周りの人たちに感謝の気持ちを持つことができる。 ○募金のお願いのために、積極的に動くことができる。
社会連帯感の育成	家族や地域、学校の中の一人として活動することで、お互いに支え合って生きていることや自分もその構成員の一人としての自覚を持つことで、社会連帯感を育てる。	○自分の周りや、広く世界にも目を向けることができる。 ○募金を呼びかけたり募金をしたりすることで、人の役に立つことに喜びを感じることができると共に、募金に協力してくれた人に感謝の気持ちを持つことができる。また、社会の中の一員であることを自覚することができる。

Ⅵ. 活動計画（２０時間扱い）

活動	支援・つけたい力
○金銭教育の振り返りをしよう ・「自分は恵まれているなあ」 ・証拠さがし ・貧しい国の人の様子調べ ・マリオさん（交際交流員）の話	＊できるだけたくさん出させて、友だちの気づきにも共感させる ・行動力 ・発見力 ・情報収集力
○自分に何ができるかなあ ・募金・・・(100 円でできること調べ) ～ジャワ島地震に対する募金の計画～ ・地震でジャワ島の様子はどうなったのか ・募金をしよう・・・「考えこまないで、動いて!」 ・できることは、小遣いの中から募金すること ・地域の人にも呼びかけよう ・準備はどうするか ・どんなふうに呼びかけようか ・どんな準備がいるか ・とにかくやってみよう	＊子どもたちの方法を尊重し、どうしたらいいかわからないとき、いくつかの資料を出し適切に助言する ・企画力 ・構成力 ・表現力 ・行動力
○募金活動をする ・募金箱設置のお願い ・募金箱の回収 ・募金の集計・お礼	＊事前に地域の募金箱を置かせていただく方へお願いをしておく ＊募金箱のお願いやお礼の練習をさせ、自信を持って、地域に出かけることができるようにさせる
○募金活動を振り返って ・学んだことをまとめる。(成果と反省) ・今後したいことを考える。	・表現力 ・コミュニケーション能力 ・考察力
○これからの活動を考える ・これから自分たちが取り組むことについて、グループごとに内容や方法を具体的に考える。 ・グループごとに考えを出し合い、具体的な取り組みを決める。 ・役割分担などをする。	＊これまでの毎時間の資料や、自分のまとめや教師の評などを参考にさせる

Ⅶ. ジャワ島募金活動を終えて～子どもたちの変容～

（1）地域の方の温かさを実感した子どもたち

「募金箱を、地域の人がよく集まる場所にも置いてもらったらどうかなあ。」

という一人の子どもの言葉に全員が賛成した。そして、学校以外に８ヵ所に置いてもらうことにした。事前に、子どもたちには内緒に、教師がお願いに行っていたが、子どもたちも役割分担をしてそれぞれの場所でお願いをした。緊張した面持ちであったが、ジャワ島の様子、そのことに対する自分の思い、なぜ募金活動をしようとしているかなどを語ることができた。

地域の方々からは、

「いいことを思いつきましたね。頑張ってください。」

「みなさんの気持ちがわかりました。協力させてもらいます。」

「自分のことだけじゃなくて、今世界中に困っている人がいることに目を向けることができたことはすばらしいことですね。」

など、たくさんの温かい言葉をかけていただき、いい気持ちで引き続き募金活動に頑張ることができた。そして、その地域の方の温かさは、募金箱回収の時も、募金活動の報告の時も同じであった。

子どもたちは、そんな地域の方々の温かさを次のように捉えている。

①ジャワ島の人のために地域の方々は協力してくれたのだろう。
②「熊毛小学校の６年生が頑張っているのなら、協力しよう。」という気持ちで募金してくれたのだろう。

実際に、募金箱を置かせていただいた熊毛地区改善センターには、もうすでに「ジャワ島募金の募金箱」が設置されていた。それなのに、子どもたちが作った募金箱をその横に置いてくれたのである。また、酒屋さんは、店内に入ってくると一番先に目に飛び込んでくる場所に設置してくれ、子どもたちにも相談しながら設置場所を決める方もいた。これらのことは、子どもたちの心にもしっかり残っていて、感激していた。

また、３年くらいかけて貯めた１円玉をビニール袋に入れて募金してくれた方もいた。この１円玉を募金するならば、これまでにも機会はあっただろうし、これからもあると思うが、この機会に募金してくれたことについても考えてみた。それは、とりもなおさず、熊毛小学校の子どもたちが頑張っていたからだと、子どもたちも感じ取れた。

言葉や行動で、地域の方は、子どもたちに温かい心を示してくれ、子どもたちは、地域の方々の気持ちをじっくり考えることができた。

（2）自分の小遣いから募金できた子どもたち

子どもたちは、自分のためや家族のためなどには小遣いを使える。しかし、『自分の小遣いを見ず知らずの人のために使えるか？』というと、はっきりわからない。年末に、毎年児童会の提案で歳末募金をしているが、その際にも、保護者から募金のためのお金をもらって募金している子もいるという実態がある。

今回は、『自分にできること』を考える段階で、『おうちの人にもらったお金を募金する』ということは出てこなかった。金額は少なくても、自分の小遣いから募金することに意義があることを、子どもたちと話した。

しかし、募金活動が終わって、自分の募金した金額が少なかったことを反省としている子どももいたので、金額の多少ではなくて、少ない金額でもそれに込められている募金する人の気持ちについて考えていった。

（3）見る目が広がった子どもたち

「ジャワ島地震についての新聞記事があったから、みんなで読もう。」
という形で、教師の方から投げかけたことであるが、子どもたちは、ジャワ島地震について調べていきながら、その投げかけを受け止めた。ＡＰＵ（立命館アジア太平洋大学）の学生さんの言葉の中に、「考えこまないで、動いて！」というのがあったが、その言葉は、６年生の子どもたちの心を動かした。

ジャワ島地震についての新聞記事を読んだり、インターネットで調べたり、日常の話題になったりしていった。子どもたちにも確かめたが、それまでは、社会的な事件や事故などのことが、日常の話題になったり、そのことについて進んで調べようとしたりすることは、ほとんどなかったようだ。また、募金の様子や、世界の困っている人のことを調べるために、ユニセフのホームページを開いて、幼いうちにたくさんの子どもたちが亡くなっていることや、学校に行けない子どもたちがいることなどを知ることができた。

子どもたちの見る目は、身の回りから少しずつ世界に広がっていっている。

また、これから、着られなくなった服や書き損じはがきを集めたり、歳末募金などを提案したりして、自分たちにできることをしていこうと相談している。

Ⅷ. おわりに

夢の実現のために有効にお金を使ったり、社会貢献のためにお金を使ったりすることを6年生なりに考えてきた。子どもたちが少しずつ変容しているのがわかる。これも、地域の方々の協力のおかげである。人と人とのつながりの中で生活できていることを、子どもたちは実感できた。また、教師は、地域の方々と共に子どもたちを育てていっているという手応えがあった。

子どもたちには、ものやお金や人の心を大事にして、幸せな人生を送って欲しい。また、自分の夢を描き、その夢に向かって進む人生を送って欲しい。

【添付資料１　１時間のまとめ・自己評価カード】

総合的な学習の時間　5月31日（水）

名前

今日の予定は？	困っている人と出会いたい。
今日したことは？	インターネットでジャワ島のことや、困っている人とのことを調べた。
困ったことは？	たまに、先生にしてもらわないと、パソコンの使い方がわからなかった。
誰かにたずねたいことは？（SOS）	
感想と反省	ぼくは、困っている人の出来ごとをしらべて、毎日、家族のために、水をくみに、6キロも歩いていかないとわるいから学校にも行けない人達がいるから、ぼくはめぐまれている人だと思います。反省は少し話してしまったり、笑ったりしたから、これからは気をつける。
今日の資料番号	①～⑤
先生から	「自分は恵まれている」というしょうこをたくさんをてきれたね。学校に行くということはあたり前のことではないのですよ。感謝の気持ちも自然にあてきますね。

総合的な学習の時間　6月　5日（月）

名前

今日の予定は？	ユニセフのことをまとめる。
今日したことは？	資料を見ながら、もぞう紙に書くことのした書きをした。
困ったことは？	なにを書けばいいのかわからなくて、困った。
誰かにたずねたいことは？（SOS）	マリオさんに今まで行った国でかわいそうだと思った国をたずねたい。
感想と反省	資料をたくさん見て、ユニセフのことがよくわかった。けっこうよくまとめれたのでよかった。ニューヨークにユニセフ本部があることがわかってなぜニューヨークにクと思ったけどまいいやと思いました。現地にも事務所があることがわかって、すこし知識がふえました。
今日の資料番号	
先生から	ユニセフが世界中の困っている人のために活動しているのがよくわかりましたね。これからも、いろいろな知識を増やして下さい。資料のなかから、どれを選んでみんなに知らせるかを考えることも、いい勉強になりましたね。

今日の振り返りカード

今日：（6）月（16）日（金）　名前（　　）

【課題追求】

項目	評価	理由
1．新しい発見がありましたか。	3	私はけっこうとてもよいに近い方だと思います。だまって書いたりしました。
2．自分で考えて問題を解決しようとしましたか。	5	
3．学習の仕方がわかりましたか。	4	
4．積極的に取り組みましたか。	5	
5．集めた情報を整理できましたか。	3	

（4）

【人とのかかわり】

項目	評価	理由
1．自分の意見を伝えることができましたか。	4	私は、あまりこれはできませんでした。でも紙を通して意見を伝える事ができました。
2．人の意見に耳を傾けることができましたか。	5	
3．意見交換で、自分の考えを深めることができましたか。		
4．礼儀正しく接することができましたか。	3	
5．協力して活動できましたか。		

（4）

【見通す】

項目	評価	理由
1．やりたい課題を見つけることができましたか。	3	私は、ふつうでした。もう少しがんばった方がいいと思います。
2．したい理由がはっきりしていましたか。	3	
3．わからないこと・やりたいことなどがはっきりしていますか。	3	
4．計画を立てることができましたか。	3	
5．次は何をするか見通しが持てましたか。	3	

（5：とてもよい　4：だいたいよい　3：よい　2：もう少し　1：できなかった）

感想など　私は、今日をふり返ってよかったです。またしたいです。

先生から　じっくり考えることができましたね。みんちゃんの思いが、まるめの紙の中にたっぷり入っていましたよ。

今日の振り返りカード

今日：（6）月（16）日（金）　名前（　　）

【課題追求】

項目	評価	理由
1．新しい発見がありましたか。	2	だいたいのことができているけど少したりないときもある。
2．自分で考えて問題を解決しようとしましたか。	5	
3．学習の仕方がわかりましたか。	4	
4．積極的に取り組みましたか。	3	
5．集めた情報を整理できましたか。	3	

（1+4+5÷3=3.4　3.4

【人とのかかわり】

項目	評価	理由
1．自分の意見を伝えることができましたか。	2	特別によいというものはない。たは相手のことまでは考えていなかった。
2．人の意見に耳を傾けることができましたか。	3	
3．意見交換で、自分の考えを深めることができましたか。		
4．礼儀正しく接することができましたか。	3	
5．協力して活動できましたか。		

（2+3÷2.6　2.7

【見通す】

項目	評価	理由
1．やりたい課題を見つけることができましたか。	3	よいところもあったけどまだまだ見通しがたりない。
2．したい理由がはっきりしていましたか。	3	
3．わからないこと・やりたいことなどがはっきりしていますか。	3	
4．計画を立てることができましたか。	1	
5．次は何をするか見通しが持てましたか。	2	

（5：とてもよい　4：だいたいよい　3：よい　2：もう少し　1：できなかった）

（1+4+2÷5=2.4　2.4

感想など　ぼくは見通すことがまだまだなので、こんどからはちゃんと計画を立てていきたいです。

先生から「見通しを持つことができなかった」、「見通しを持つことが大事」と成っていることが、大きな収穫ですね。とても大切なことに気づきましたね。

【添付資料II　募金のお願いと募金のお礼】

6月6日

ジャワ島募金にご協力お願いします

ジャワ島で5月27日地しんがおこりました。6000人以上の人がなくなり家もたくさんこわれました。

そこで、わたしたちは、ジャワ島地しんを知って、わたしたちにできることはないかと思って、考えました。行ってこわれた家のかたづけなどはできないので募金をしようということにしました。たまったお金をジャワ島にきふして、少しでも困った人の役に立ちたいと思います。

わたしたちは、金銭教育をしていて、お金を自分のためでなく、自分の周りの困っている人のためにつかうことも、いいお金の使い方じゃないかなぁと思うようになりました。

それで、自分たちのお小づかいから少しでも募金をしたいと思います。でも、全校の人だけでは たりないので地域のみなさんにもご協力をお願いします。よろしくおねがいします。

・期間　6月7日～6月14日

熊毛小学校六年生一同

地域のみなさんへ
おうちの方へ

２００６年６月20日

熊毛小学校６年生一同

ジャワ島募金のお礼

先日は、ジャワ島募金に協力してくださって、ありがとうございました。６月７日から６月14日までの一週間でしたが、たくさんの募金が集まりました。合計**33，351円**でした。これは、年末に毎年学校でしている歳末募金の約３倍くらいあります。

地域のみなさんやおうちの方が、ジャワ島のことを思ってしてくれたのと、熊毛小学校のみんなががんばっているならとしてくれたのが合わさったのだと思います。一人ひとりの力は小さいですが、みんなの力を合わせたら、こんなに大きな力になることがわかりました。一年生も、自分の小遣いから募金をしてくれていました。私たちの小遣いの一部が苦しんでいる人の役に立つことは、とてもうれしいです。

それと、じっとしていたらできなかったことでもすぐ、自分たちもやろうと思って動き出せばできるということがわかりました。これからも、自分のことだけではなくて、周りの人に目を向けることができる人になるように努力します。応援してくれてありがとうございました。

募金は、６月16日に熊毛郵便局から日本赤十字に送りました。

ほんとうに、ご協力ありがとうございました。

【添付資料III　地域の方からの手紙】

熊毛小学校六年生のみな様へ

イチゴハウスにいると、熊毛小学校のみなさんの元気な声が聞こえてきて仕事がはかどります。

さて先日は、ジャワ島の地震への募金活動、ご苦労様でした。渡辺さんの所に行って、募金のことを知りました。仲本さんの所に散髪に行った時も、みなさんの募金箱を見ました。それで私は何年か忘れましたがずっと集めていた一円玉を募金しようと決めました。千円札かいと思いましたがやはりこの一円玉にしようと思いました。この一円玉は、私がこつこつ貯めたもので、数えるのが大変だったと思います。でも、みなさんなら、お金を数えながら一円玉のありがたさや、お金を粗末にしないことなどをわかってくれると思いました。

みなさんも、小づかいの中から募金したことを竹井先生から聞きました。えらいですね。さすが、熊毛の子どもはやさしいなと思いました。

みなさんのしたことが地域のみんなを動かしたことは、とてもすばらしいことです。

これからも勉強や運動に頑張って下さい。そして、元気のいい声を運動場にひびかせて下さい。

六年生のみな様へ

●●●●

【添付資料Ⅳ 募金活動の振り返りのまとめ】

＊募金活動を振り返って（6 月 16 日）

項目	感想	反省
1. 地域の人への募金活動をして学んだことは何ですか。また、自分の反省は何ですか。	①地域の人はジャワ島の人のことと、 熊毛小学校のことを考えて募金してくれた。(C1・C4・C9) ②地域の人は、応援してくれている。(C1) ③地域の人の力はすごい。(C2・C6) ④地域の人の温かさ・優しさがわかった。(C3・C6) ⑤地域の人は大切だ。(C4) ⑥自分たちの活動に協力してくれている。(C5) ⑦田川さんは、たくさんの 1 円玉を入れてくれた。(C5・C6) ⑧地域の人が「頑張って。」と言ってくれて、やる気が出た。(C7) ⑨学校の募金よりたくさん集まっていた。(C7) ⑩地域の人は、ジャワ島のことが心配で募金してくれた。(C8)	①お願いに行ったとき、少し姿勢が悪かった。(C1) ②言い出しっぺなのに、あまり募金していない。(C2・C9) ③お願いとお礼の言葉の練習不足。(C3) ④じいちゃんやばあちゃんにお知らせしていなかった。(C4) ⑤自分から動かなかった。(C8)
2. 学校での募金活動で学んだことは何ですか。また、自分の反省は何ですか。	①全校の人が、ジャワ島のために募金してくれているのがわかった。「今日は忘れたけど、明日持ってくる。」と言って、ちゃんと持ってきた。(C1) ②1 年生も募金の意味がわかって、募金してくれた。(C2) ③学校のみんなは、少ないお小遣いから協力してくれた。(C3) ④全校のみんなや先生で協力できた。(C4・C5) ⑤初日から忘れずに募金してくれた人がいて、やさしい。(C6) ⑥初めは、あまり意欲がなかった。(C7) ⑦募金するとき、自分の気持ちがどれだけ強いかで決まる。(C7)	①募金箱を持って行く順番を決めていなかった。(C1) ②家に 5 円や 1 円玉があるのに、それを募金していない。(C2) ③働いている (新聞配達) ので、もう少し募金すればよかった。(C3) ④自分が募金するのが遅くなった。(C4) ⑤あまり募金をしなかった。(C5) ⑥募金箱を友だちに任せていた。(C8・C9)
3. 募金活動全体を通して、感想はどんなことですか。	①一人ではどうすることもできないが、多くの人が協力すればいろいろできる。(C1) ②先生たちも募金してくれてありがたい。(C2) ③自分が出した案 (地域にも募金箱を置いてもらう) がここまでいくとは思わなかった。(C3) ④最初は、世界の友だちのことなんて考えていなかった。でも、今はちがう。世界の人が幸せでいて欲しい。募金がそれを教えてくれた。(C3) ⑤募金箱を集めたとき、お金の重みを感じた。(C4) ⑥募金してくれた人が、どんな思いで募金してくれたのか知りたい。(C4) ⑦募金箱を作ったりお願いしたりするのは大変だったけど、そのおかげで、地域の人や学校のみんなが協力してくれているのがわかった。(C5) ⑧募金活動をして楽しかった。うれしかった。(C6) ⑨ゲームが買えるくらい集まったからびっくりした。(C7) ⑩みんな、ジャワ島のことを思っている。(C8) ⑪募金活動をしてよかった。少しでも早く届いて欲しい。(C9)	①役割を決めていなかった。早く来た人が、昇降口に行くことになった。(C1・C2・C3)

4. 募金活動を通して、自分や友だちのよさに気づきましたか。	①１年生が、近くの人に募金してもらいに行ったのがすごい。自分にはできない。(C1) ②だいたいいつも募金している人がいた。(C2) ③男子が毎日募金に行っていた。(C2) ④少しえらい。(C3) ⑤自分から進んで募金箱を持って行っている人がいた。(C4・C9) ⑥募金箱を作っているとき、みんな一生懸命だった。(C5) ⑦みんなが集まればいろいろなことができる。(C5) ⑧学校のほとんどの人が募金してくれてやさしい。(C6) ⑨募金してもらって「ありがとうございました。」と大きな声で言っている人がいました。(C7) ⑩ 500 円くらい募金してよかった。(C7) ⑪ 9 人でも大きなことができた。(C9)
5. 募金活動全体を通して、学級全体の反省は何ですか。	①見通しを持って活動できなかった。(C1) ②朝が忙しくて募金に出られなかったことがあった。その時 (火曜日のリレー大会) の対策案を考えていなかった。(C2) ③募金箱を持つ順番を決めていなかった。(C3・C4・C9) ④朝、募金箱を持ってふざけることがあった。(C4) ⑤最初めんどくさかったけど、みんな頑張っていて、私もがんばらなくちゃと思った。(C5) ⑥募金箱を昇降口に持って行くのが遅くなって、教室に行ってしまった人もいた。持って行くのを忘れていた日もあった。(C6) ⑦ジャワ島の人たちに対する気持ちが、最初は低かったので、募金してもらう人がそんなことじゃわるいと思う。(C7) ⑧私は、募金活動を呼びかけるとき、大きな声で言えなかった。(C8) ⑨もう少し、心を込めて募金のお願いをすればよかった。(C9)
6.「人の役に立つ」とか、「人と人がつながる」とかいうことについて、どう思いますか。	①ジャワ島の人の役に立てた。(C1) ②地域の人とつながっていると感じた。だから募金する気になったと思う。(C1) ③人の役に立つことはいいことだ。(C2) ④地域の人に、熊毛小学校をいい学校と思わせたと思う。(C2) ⑤困ったときはお互い様で、助けてあげたい。デパートとかで募金をしていたらしたい。(C3) ⑥地域の人と力を合わせればこんなになるので、続けたい。(C3) ⑦募金は、どんなに離れていて心がつながっていない人でも、心がつながる。ジャワ島の人たちを助けたいと思ったから、地域の人とつながった。(C4) ⑧世界には、学校にも行けない子ども、きれいな水を飲めない人もいることを知った。(C5) ⑨これからは、こちらも地域に協力していきたい。(C5) ⑩「人の役に立つ」というのは、やさしい言葉だ。人の役に立つと、やさしくなる。(C6) ⑪人と人がつながると、いろいろ買える。(C6) ⑫地域の人や学校の人たちとつながっているから、募金がたくさん集まった。(C7) ⑬うちのばあちゃんの店に置いていたので、ばあちゃんがたくさんしていた。(C7) ⑭自分は幸せだけど、ジャワ島の人は大変。(C8) ⑮「人の役に立つ」とか、「人と人がつながる」ということについて、ジャワ島の人がいたからできた。(C9)

2006年度　熊毛小学校6年学級通信　2006年6月5日

やるなあ！

ジャワ島へ、募金をしよう

昨年度1年間金銭教育に取り組んで、子どもたちは、自分たちが恵まれていることにも気づきました。身に回りには、物がたくさんあって、食べることにも不自由しないという生活のことです。それで、今年度は、少しでも周りの人の役に立つような活動がしたいと話していたときです。ジャワ島に地震が起きました。ＡＰＵの学生が、向こうに留学していて、「考え込まないで行動して」という連絡があったという新聞記事も読みました。

そこで、さっそく自分たちにできることを考えました。向こうに行って片づけなどを手伝ったり、けがをしている人を助けることもできないし、できることは、小遣いの中から、少しでも募金をしようということになりました。また、地域の人にも呼びかけようという声も出て、地域の人が集まる場所に募金箱をおいてもらおうと相談しています。

今、どんなふうに呼びかけるかを考えて、募金箱も準備中です。二・三日中には始めたいと考えています。

拡大写真

真剣な表情で車に箱を差し出し、寄付を求めるイスカ君（右）＝インドネシア・ジャワ島中部のバントゥルで29日、井田純写す

（インターネットより）

2006年度　熊毛小学校6年学級通信　2006年6月8日

やるなあ！

募金箱のお願いに回りました

昨日の総合の時間に、地域の方のところに、募金箱をおいていただくようにお願いに行きました。全員で行き、それぞれの場所でお願いの挨拶をしました。

みなさん、「がんばってください。」「いいことを思いつきましたね。」などと励ましてくださり、子どもたちも「よし。」と思ったと思います。地域の方が応援してくださっていることや見守ってくださっていることがよくわかったと思います。ほんとうにありがたいことです。一週間募金箱をおいていただくので、また来週の水曜日に回収して回ります。

この一週間は、また、「１００円でできること」「ジャワ島地震について」「世界の子どもの様子」など、それぞれのグループの調べ学習をしていきます。

2006年度　熊毛小学校6年学級通信　2006年6月12日

やるなあ！

募金箱設置、ありがたいです

渡辺区長さん宅に設置させて頂いた募金箱です。戸を開けて入ったら、正面にお願いの文書をいっしょに取り付けていました。お客さんんの目につくようにしてくださっています。みなさんにご理解をいただいてありがたいです。水曜日の午後にはいただきに行きます。一週間という短い期間の取り組みですが、学校でも、毎朝昇降口でお願いをしています。

この活動を通して、子どもたちにどんな気持ちが生まれるのか楽しみです。

募金をお願いに行く前日、やるべきことをやっているか振り返りました。一人ひとりの思いはちがいますが、問題を出し合うことで、自分たちがしなければならないことがすこしずつはっきりしてきました。一番しなければならないことは、ジャワ島の様子を知ることです。

＊●●●●
やらないとわるいことを考え直してみると、山ほどしなくてはいけないことがあった。これからは、職絵から言われなくても、しなくてはならないことは、進んでしていきたい。ジャワ島のことも、適当に考えずに、真剣に考えていきたい。

＊●●●●
やらないと思いことを考え直してみたら、いっぱいあって、もっと最初にしておけばよかったのにと思ったことももいっぱいあった。反省は、一番大事なことを思っていたけど、言わなかったことが、わけは、大事なことと思っていなかったからです。なので、これからは、思ったことを考えずに言いたいと思います。

＊●●●●
箱作りの時は、話しながらしてしまったから、真剣に考えてしまった。一番健ちゃんが意見を言ってました。私は、「言ったのはいいけど、どうしよう」と思っていた。今日は、意外と真剣にしたけど、すこし人任せにしていたとき、てっちゃんが意見を言ってくれて、助かりました。ので、いっぱい意見を言いたいと思います。

＊●●●●
地震の資料を読んで、テント暮らしをしていて、食料も足りなくて、テント暮らしをしているのに、どろぼうが夜中に何回も入って、いろんな物を盗んだら、盗まれた人たちは、何にもなくて、生活できるかわからないのに、盗むなんてずるいなあと思います。

金銭教育に関して

～おうちの方から～

①お金の遣い方

今まで小遣いの遣い道は、まんが、おかし、ジュースを買うのがほとんどでしたが、最近は「無駄遣いをしないようにする」と控えているようです。先日の学校での募金では、学校でも話し合ったようで、「自分の小遣いから募金をする」と張り切っていました。また、先日の５月の母の日には、私の好きなパン屋さんで、昼食をおごってくれました。親ばかですが、いつも以上においしいく感じました。お金の生きた遣い方が、すこしずつできるようになってきているかな？

②お手伝いのこと

お手伝いを家族の一員としてするようになって、一つの仕事のほかに、他の手伝いを頼んでもしてくれるようになりました。特に、私が荷物を持とうとしているときは、自分から進んで手助けをしてくれます。「ありがとう。気が利くねえ。」と言うと照れています。私の体を気遣ってか、それだけ、本人が成長したのかわかりませんが、うれしいことです。これから、家族だけでなく、困っている人誰にでも、やさしい気配りができるようになって欲しいです。

③お餞別とお小遣いについて

修学旅行に向けて、祖父母よりお餞別をいただきました。親も何気なく本人に渡したままでした。そのおかげでお小遣いが多くなりました。そこで、一定額をこえた小遣いをどうすｒ？という話し合いをしました。

（ア）今ある小遣いをそのまま手持ちし、月々の小遣いをしばらくストップして生活する。

（イ）手持ちの半分を貯金して、月々の小遣いは、もらうようにする。

本人は、（ア）を選びました。本人曰く、月々の小遣いをストップしたら、お父さんたちのお金が減らずに、自分もお金を大事にすれば、どっちも減らないですむから・・・とのことです。本当にそうなるといいのですが・・・。

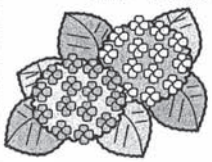
＊●●●●
今日、自分たちが総合の時間にやることを考えました。私は、先生にお願いするという意見を言いました。そうしたほうが、一年生とかがよくわかると思ったからです。次の時間からは、考えて行動したいです。特に、意味のある行動をしたいです。

＊●●●●
資料を読んで、死者が６０００人以上になったとか書いていて、とてもこわいなと思いました。親がいなくなった子どもはかわいそうだなあと思いました。それに、家がなく、テント生活の人もかわいそうだなあと思いました。ぼくたちの小遣いをちょっとでも役立てたいと思います。そして、いい生活になって欲しいです。明日行くところで、大きな声で言いたいです。頑張りたいです。

＊●●●●
ぼくは、ジャワ島のことを改めてちゃんと考えてしないとわるいなあと思いました。わけは、先生から聞かれて、ぼくは、１０点満点の４～５点なので、あまり考えていなかったからです。これからは、ジャワ島の人たちの資料をよく読んで、家がなくて困っている人たちのことをいっぱい知りたいです。

＊●●●●
ジャワ島の人たちを助けたくて募金をしたいと思いました。わけは、自分たちにも何かできることはないかと思ったからです。ジャワ島の人たちにお金をあげたくてしました。私は、あまりよく考えていませんでした。これからは、ジャワ島の人たちのことをもっと考えたいです。

＊「河村春菜
まだテント暮らしが続く被災者がいるんだなあと思いました。改めて、募金をした方がいいと思いました。長老の人でも、左足を骨折してしまって大変だなあと思いました。食べものもなくて、おなかがすいている子どももいるそうです。



2006年度　熊毛小学校6年学級通信　2006年6月15日

やるなあ！

募金箱を集めました

昨日5時間目に、募金箱を設置させてくださったお宅に、募金箱を集めに行ってきました。小熊毛地区は、教頭先生が行ってくださり、大熊毛地区は竹井が行きました。どちらにうかがっても、またまた励まして下さり、ほんとうにありがたいなあと思いました。地域の方のご理解の元で生活していることを子どもなりに感じることができたと思います。

この活動を通して、自分たちが人の役に立っていることや自分たちも勇気を出せば何かできることがわかって、子どもたちがひと回り大きくなったと思います。

金銭教育の熊毛小学校のねらいである、「家族や地域、学校の中の一人として活動することで、お互いに支え合って生きていることや自分もその構成員の一人としての自覚を持つことができ、社会連帯感を持つことができる」というところに、ある程度向いつつあるかなと思います。でも、これはまだとっかかりの取り組みで、これから長い取り組みにつなげていきます。どのように発展するのか楽しみです。

今後ともよろしくお願いします。

＊Yショップの岩見屋さん、ありがとうございました。国東市商工会のホームページ見ました。

＊竹丸さん、園廣さん、お世話になりました。ありがとうございました。

＊仲本さん、いつもお仕事中でしたが、ありがとうございました。

＊園廣さん、ありがとうございました。北崎さんは、この日はいらっしゃいませんでした。

＊渡辺区長さん、お世話になりました。啓子先生も、実は横にいらっしゃいます。

＊先生は往診中でした。お世話になりました。ありがとうございました。

＊隆ちゃんのおばあちゃん、ありがとうございました。朝、隆ちゃんが箱を持って来てくれました。

＊幼稚園の先生方、ありがとうございました。お世話になりました。

ご協力ありがとうございました

2006年度　熊毛小学校6年学級通信　2006年6月16日

やるなあ！

おとといお金を集めて、昨日集計しました。なんと、33351円集まりました。いつもの年末の学校での募金でしたら、1000円そこそこですが、なんと3万円を越しました。1年生も、ジャワ島の人たちのために、小遣いから募金をしてくれました。地域の方は、募金箱をご覧になって、ジャワ島の人たちのために、そして、熊毛小学校の子どもたちのために募金をしてくださったと思います。ほんとうにありがたいです。

集計した後に、子どもたちが感想を書いて、みんなで読み合いました。子どもたちの読んでいるのを聞いていて、ぐっとこみ上げてくるものがあり、またまたみなさんの応援に心から感謝しました。

33351円集まりました

子どもたちの感想

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

お金を数えるのがぼくは一番楽しみでした。だけど、いざ数える時には、なかなか数えきれませんでした。でも、数えきれてよかったです。学校は918円で、地域の人たちは2353円で、全部で3351円でした。小さいお金とかがいっぱい集まってびっくりしました。地域の人たちのちからはすごいと思いました。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

ぼくは、集まったお金を数えてみて、疲れました。でも、ほんの一週間でこんなに集まることにびっくりしました。お金を種類別に10枚ずつ集めていく作業はとてもむずかしかったです。一度数えただけでは間違うので、二回ずつ数えました。全部で3351円も集まって、とてもすごいと思いました。ぼくは、これで何人のひとが救えるのかなあと思いました。少しでもまんがを買うお金があったら募金をしたいです。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

数えてみて、ふだん見たことのないお金の数にびっくりしました。でも、1円玉はそろそろ集まるに353円（学校分）ええと思いました。地域の人たちに頑んだ募金は、そろそろ集まってこんなに協力してくれたのかと思いました。結果、3351円たまって、12月の募金の3倍もあって、びっくりしました。もう一週間あったら、5000円は貯まっていたと思います。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

今日は募金箱に入っていたお金が何円あるか数えました。私は2班で、地域の人がしてくれた方をしました。千円札が8枚も入っていました。私は、これでジャワ島の人が救えるなと思いました。田川さんからいただいた1円玉と5円玉、数えると353円にもなりました。全部合わせると3351円にもなりました。まさかこんなに募金してくれるとは思いませんでした。これで、ジャワ島の人たちの暮らしが楽になると思います。地域の人たちが少しずつくれたのが大きなお金になって、ジャワ島の人を助けるお金の大切さとお金の重さがよくわかるようになりました。本当に、地域の人に感謝したいと思います。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

ぼくは、募金のお金を数えて、1円玉を7割くらい数えていて、10枚ずつ数えていたから、1から10までの数を数えるのが速くなったり、うまく言えるようになりました。反省は、10枚のかたまりを作っていったけど、ばらばらになってしまったことと、あっちこっちに行って数えたことです。33351円も募金が集まって、ジャワ島だったら、どのくらいのお金になるのか知りたいです。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

今日、募金で集まったお金を数えました。1円や10円が特にたくさんありました。中には、千円札も入っていて、みんなほんとうに協力してくれたんだなあと思いましたが、みんなのお金が集まると、これなにたくさんになるんだなあと思いました。ジャワ島の人たちに、ちょっとでも役に立てばいいと思います。町でこれからこういう募金があったら、ちょっとおでも協力したいです。地域の人、ほんとうにありがとうございました。

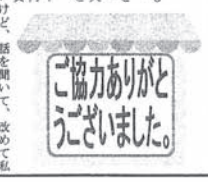
＊＊＊＊＊＊＊●●●●

ぼくは、募金を集計してすごくいっぱい集まったなと思いました。数えて10円玉は簡単にできたけど、1円玉はいへんでした。かなりあったので、今何円数えたのか忘れたりしました。1円玉は353枚（学校分）ありました。地域の人が募金してくれた1円玉は145枚ありました。合わせて33351円でしたなりの人が楽になるのだなと思いました。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

今日、募金を計算してみて、けっこう集まりました。それは33351円です。私はお金を入れてくれた人は、やっぱりジャワ島の人たちのことを思っているんだと思いました。ジャワ島の人たちのために33351円を遣ってほしいなと思います。地震での前の生活にもどってほしいです。地域の人たちのおかげです。このお金に地域の人たちの思いが込められていると思います。

＊＊＊＊＊＊＊●●●●

お金を数えると、こんなにお金があるんだなあと思いました。私は、1円がいっぱいあるんだなあと思いました。学校と地域では、お金の数がけっこうちがっていました。地域の人は千円札も入れてくれていて、うれしかったです。たった一週間だったけど、たくさん集まっていました。合わせて33351円というとても大きな額で、すごいなあと思いました。ジャワ島の人たちは喜ぶと思います。

私は、ゲームとか何万円もする物は買わないけど、話を聞いて、改めて私たちは恵まれていて幸せだなあと思いました。お金でいろいろできるんだから、本当に幸せだと思います。